



創立 40 周年にあたって

学 校 長

羽田野 正 史

昭和 49 年、生徒数の急増と地域の強い要望により岐阜県立大垣東高等学校が、普通科高校として創設されて以来、40 年目を迎え、ここに創立 40 周年記念式典を挙行し、記念誌を発刊できますことは、誠に喜びに耐えません。

また、ここ 10 数年、生徒数の減少や時代の要請により、一部の高等学校が新しいタイプの高等学校に統廃合される中、本校においては、平成 17 年度に理数科 1 学級が併設され新たな歩みを踏み出し、これまでに普通科と合わせて 12,697 人の卒業生を輩出してきました。これもひとえに歴代校長をはじめとする諸先生方の熱心な御指導や同窓生、保護者、関係各位の皆様の御支援・御協力の賜と深く敬意を表するとともに感謝申し上げます。

本校は、40 年間、校訓「仰峯不屈」のもとで、地域社会や国内はもとより世界で活躍できる人材を育んできました。

特に 21 世紀に入り、高度情報化、グローバル化に拍車がかかる社会の中で、柔軟に対応できる能力「生きる力」「生き抜く力」が求められるようになり、本校の伝統である「文武両道」の合言葉のもと、勉学はもとより、生徒会活動や部活動、ボランティア活動などに積極的に取り組み、その力を育んでいます。

現在の日本は厳しい経済状況にあり、将来が大変懸念される状況となっています。このような状況であるからこそ「生きる力」「生き抜く力」をしっかりと身につけさせなければなりません。

創立 40 周年の節目にあたって、これまでのよき伝統を踏襲しつつ、これからの新しい時代にあった特色ある学校づくりに邁進し、さらなる発展に向け努めてまいりますので、今後とも皆様の一層の御指導・御支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本記念誌に御祝辞や玉稿を賜りました皆様方に、厚く御礼申し上げまして、御挨拶といたします。



挨拶

岐阜県教育委員会教育長

松 川 禮 子

このたび、岐阜県立大垣東高等学校が創立40周年を迎えられ、盛大に記念式典を挙行されますとともに、記念誌を刊行されますことを心からお慶び申し上げます。

本校は昭和49年4月、進学意識の高まりと地域の期待に応えて設立されました。以降、教育活動の充実と施設・設備の拡充に邁進してこられました。また、平成17年度に設立された理数科は、本県理数科教育の一翼を担い、その推進に大きな役割を果たしてこられました。この間に学舎を巣立たれた卒業生はおよそ12,700名を数え、県内外のさまざまな分野で活躍する有為な人材を多数輩出しておられます。これもひとえに、向学心に燃えて本校に学ぶ生徒の皆さんのたゆまぬ努力、その熱意と期待に応えてこられた歴代校長先生をはじめとする教職員の方々のご指導、さらには本校教育活動を物心両面にわたって支援してこられた保護者、同窓生、地域の方々のご尽力の賜物と、心より深く感謝と敬意を表します。

この40年の間、私たちを取り巻く環境は大きく変わりました。とりわけ1990年代以後の情報技術の革新と経済におけるグローバル化の進行、少子高齢化の進展は、好むと好まざるとに関わらず、私たちの社会や家庭環境に大きな影響を与え、私たちはさまざまな課題に直面しています。

教育においても、時代が変わっても変えてはいけない「不易」の部分は堅持しつつ、社会情勢に柔軟かつ的確に対応した理念や新たな方向性が求められています。そうした点を踏まえ、本県教育委員会では、岐阜県の教育が目指す基本方向や今後推進すべき具体施策を明らかにした「岐阜県教育ビジョン」を策定し、その中で、自分に自信をもち、たくましく生きる「自立力」、人とつながり、互いを活かす「共生力」、高い志をもち、夢に挑戦する「自己実現力」の3つの力を基本理念として掲げました。また、今年度は、現行ビジョンを継承しつつ、今後5年間を見通した「第2次岐阜県教育ビジョン」の策定を進めています。

岐阜県立大垣東高等学校が、40年の輝かしい歴史と伝統を継承しつつ、本県の目指す教育理念を実現すべく、「仰峯不屈」の校訓のもと、新しい時代に向けて、さらなる飛躍を遂げられますよう祈念いたしまして、挨拶といたします。



学んだ「仰峯不屈」を大切に

大垣東高等学校創立 40 周年記念事業実行委員長
大垣東高等学校三稜会会長

田 口 義 隆

岐阜県立大垣東高等学校がめでたく創立 40 年を迎えることができ、全同窓会員 12,697 名を代表して衷心より祝意を表します。これもひとえに創立当初より献身的に教育に対して情熱を燃やし、生徒の指導に当たって来られた教職員の方々の並々ならぬ努力の賜物であると深く敬意を表します。

4 期生として学校の門をくぐった私にとって、東高校はまだ何もかも手探りで進みながら作り上げていく萌芽段階でした。しかし今では、歴史を重ねながらしっかりと根を下ろし、真善美を学ぶ最良の舞台として生徒を迎え、送り出していることに嬉しさと誇りを感じています。

昭和 49 年に開校した東高校から今日までに巣立った卒業生は、50 代半ばを筆頭に幅広く社会を支え、各方面で活躍をする厚い世代層となりました。私たちは夢や希望に満ち、活力のみなぎる若い時代に「仰峯不屈」の校訓のもと、勉学にも部活動にも「文武両道」の精神で一生懸命励む大切さ、喜びを学びました。私は今、このかけがえのない経験がいかに実社会において大切な人生訓であるかを、実感しています。

昨今はめまぐるしいスピードで情報が飛び交い、社会・文化・経済はいとも簡単に国境を越える時代となりました。そこで必要となってくるのが、高く尊い目標を自ら掲げ、成し遂げようとする不撓不屈の精神であり、新しい時代に順応する柔軟な発想に他なりません。このような時代を切り拓く力を学んだ諸先輩方と、その後続く後輩が東高校を基点として結ばれ、大きな力を発揮することができるのなら、それは本当に素晴らしいことだと感じています。そのきっかけの一つとして、同窓会や記念事業を有効活用していただけると幸いです。

同窓生の皆さまには、東高校を卒業した誇りと責任を持って、人生を歩んでいただきたいと思います。

最後に、この輝かしい歴史を誇る大垣東高等学校が今後益々隆盛なる前途を開拓し、たくましい若者が育ちゆく場であり続けることを心から祈念し、お祝いの言葉といたします。



ご 挨 拶

育友会長

桐 山 太基嗣

大垣東高等学校創立 40 周年を迎えるにあたり、記念式典の挙行と記念誌「三稜」の刊行に際し、心よりお祝い申し上げるとともに、一言ご挨拶を申し上げます。

本校は、「社会のリーダーをめざすにふさわしい人間を育てる」という教育目標のもと、県内有数の進学校として、優秀な人材を多数輩出し、本校を卒業された諸先輩は、県内は言うに及ばず、全国の様々な分野で、リーダーとしてその重責を担い、活躍していらっしゃいます。

また、本校がここに 40 周年の節目を迎えることが出来たのも、歴代校長先生をはじめとする諸先生方のご指導と、地域の皆様、歴代育友会役員、育友会員の皆様、そして、昭和 49 年の開校以来、約一万三千人の卒業生を数える同窓会の皆様の日ごろよりの変わらぬご理解、ご協力の賜物であると心より感謝申し上げます。

大垣東高等学校 40 周年記念事業といたしましては、記念式典・記念講演・記念コンサート・記念誌の発行・学校ホームページの刷新事業など、田口義隆同窓会長様をはじめ、同窓会を中心とした実行委員会のご協力のもと、ご尽力賜りました。

育友会におきましても、今年度、会員のご理解と総会でのご承認に基づき、永年の懸案でありました特別教室等への空調機新設が行われました。学校施設を含む生徒のみなさんの学習環境の整備も育友会の重要な役割であり、皆様のご協力に感謝申し上げます次第です。

さて、21 世紀を迎え、国の内外を問わず、社会情勢はめまぐるしく変化しつつあります。在校生のみなさんは、先輩方が築いてこられた確固たる基盤を大切にしながら、そうした新しい時代の波に立ち向かう力を身につけて、来たる 50 周年に向けて、しっかりと学び、さらなる前進、飛躍をしていただきたいと思います。

最後になりましたが、40 周年記念事業関係各位の多大なご尽力に感謝し、大垣東高等学校の今後ますますの発展を祈念申し上げまして、ご挨拶といたします。



東高の新たな伝統

平成 25 年度前期生徒会長

久 富 天

大垣東高校 40 周年、この記念すべき年を私たちの在学中に迎えられることを、大変感慨深く思っています。東高に入学してからの 2 年半の中で、行事や学校生活の様々な場面を通して、先輩たちが積み上げてこられた歴史や伝統といったものを感じてきました。

例えば生徒会最大の行事である東高祭は、夏季休業前後の数週間という短い期間で各クラスが文化祭の催し物を考え、完成させます。体育祭の応援練習もあわせて行うので大変あわただしくなります。部活動を引退し、受験モードに切り替わった忙しい時期でありながら、3 年生が中心となって、この行事を引っ張り、盛り上げていきます。それを後輩たちが見習って、次の年に中核を担っていきます。文化祭で 3 年生の全クラスが演劇に取り組むようになったのがいつ頃からかはよくわかりませんが、3 年生のリーダーとしての意気込みのようなものが受け継がれてきた、良き伝統だと思います。そして、このような例は東高祭に限らず、学校生活全体に息づいているということを感じます。

また東高には他の学校には無い特色として、理数科があります。平成 17 年度に設置され今まで 9 年間にわたって様々な研究や活動を積み重ねてきました。私は 3 年間この理数科に在籍し、それらの活動に参加し、いろいろな経験をしてきました。そのひとつに、大学や企業などの外部研究機関からゲストの講師を招聘し行う「トライアル講座」があります。生徒は、普段の授業よりもひとつ上のレベルの講義や研究指導を通して、理科や科学技術に関する多くの事を学びます。この経験と学校で日々学んでいる成果を、地域に役立てようと企画されたものが、地元の小学生を東高に招待し生徒が講義を行う「美和塾」です。そして 2 年生ではいくつかのグループに分かれ「課題研究」が行なわれます。自分が興味を持った分野を仲間とともに研究し、まとめとして 1 年の最後に発表を行います。この発表を見た後輩たちが来年度の研究へとつなげていきます。これらの体験には仲間とともにひとつの研究を成し遂げたという大きな達成感や連帯感があります。

このように東高ではあらゆる場面で先輩たちが後輩たちを引っ張っていく姿が見られます。これはまさに「高い理想を旨とし、くじけず頑張ろう」という校訓「仰峯不屈」の精神の現れではないでしょうか。これは私たちが社会に出て人生を歩んでいく中でかけがえない財産となっていきます。私は東高の生徒であることを誇りに思います。

40 周年という記念すべき年を迎え、私たち生徒一人一人が受け継がれてきた伝統の重みを感じ、東高の一生徒であることを自覚し、今後の東高の発展へ向けてまたひとつひとつ積み重ねていきたいと思っています。

寄

稿



さらに輝け、東高

第十四代校長

大 橋 國 男

創立 40 周年、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

古い話になりますが昭和 56 年 4 月に東高に赴任し、校歌の作詞者が私の高校時代の英語の恩師殿岡辰雄先生であることを知ったとき、高校時代の様々な思い出がよみがえり、初めての東高が母校のように懐かしく感じられました。以来 18 年間、再赴任後さらに 3 年間で 21 年の長きにわたって東高にかかわり、在任中 10 年、20 年、30 年の周年行事の全てに立ち会い、教員生活の大半を東高で過ごすことができたことは大きな幸せでした。

昭和 49 年、東高は地域の大きな期待を受けて産声を上げました。草創期の活力あふれる学校づくりから始まり、群制度の改変、廃止という変化をくぐり抜け着実に成果をあげ、地域の中心校として根付いてきました。それは校訓「仰峯不屈」の下、生徒諸君の真摯な努力精進、先生方の献身的な指導支援、保護者および県市地域の関係者の皆様方の温かい援助支援の賜物であります。

30 周年の節目に校長として赴任し、教育目標を「社会のリーダーを目指すにふさわしい人間を育てる」と掲げ、その目標達成のため「志の実現のための高い学力」と「文化の尊重、国際感覚に富んだ豊かな人間性」を身につけさせることを大きな柱として、様々な活動に取り組みしました。「学力」と「文化」の充実、「豊かな人間性と国際感覚」の醸成のため、記念行事での大阪フィルの招聘、体育館南に 2 階建て部室の新築による部活動支援、またオーストラリアへの修学旅行、英国セント・ジョージ校との交流・相互訪問、水球部のスペイン合宿、美術の授業で製作された絵本をネパールの子どもに寄贈するなどなど海外にも視野を広げた多彩な活動が展開されました。インターハイや全国総合文化祭という大きな舞台で数多くの生徒が県代表として活躍しました。また愛知万博で訪日された当時のネパール王室のヒマーニ皇太子妃殿下に、美術選択の代表生徒が直接手作り絵本を贈呈したことも印象的でした。

東高生たちは東高で学ぶことを誇りとして、それぞれの時代に熱い青春の胸の血をたぎらせ、輝かしい歴史と文化、伝統を作り続けてきました。教育目標の実現を目指し、未来に向かって力強く歩き続け、東高がさらに輝きを増すことを祈っています。



大垣東高校の思い出

第十五代校長

佐竹 恵 教

大垣東高等学校が創立 40 周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

先日、大垣駅で「先生、こんにちは…」と声をかけられました。きりっとした会社の制服に身を包んだ凛とした青年、大垣東高校の卒業生でした。大学を卒業して就職し、研修期間を終えて初任地に配属されたばかりとのこと。その姿から眩いばかりの清々しさを感じ取りました。「そうか、もう 5 年になるのか」、改めて時の経つ速さを感じた次第です。

私が大垣東高校に勤務させていただきましたのは、平成 18、19 年度。当時お世話になりました方々、そして何よりも一生懸命勉学に励んでくれました生徒の皆さんに対して、感謝の気持ちで一杯です。当時在学しておられました生徒の皆さんは、今、それぞれの持ち場でがんばっておられることと思うと、大変頼もしくうれしく思います。

わずか 2 年の大垣東高校での勤務でしたが、いろいろなことを体験させていただきました。私の至らなさから先生方にはご迷惑をおかけしたことも多々あったことと思います。「継続は力なり」といわれますが、短い期間でしたが、続けることができたことの 1 つが、午前 7 時 40 分頃から 8 時 30 分頃まで、毎朝校門に立ってきたことです（学校近辺をふらついたといったほうがいいかもしれませんが）。学校周辺は狭い道ばかりです。そこに短時間に全校生徒が集中します。生徒指導部の先生方を中心に、危険箇所等の交通指導に当たっていただきました。私もその中の一人として学校周辺に立ってきました。「ヒヤッ」とすることもありましたが、登校時の交通安全に努めてきました。

そのなかで、うれしいこともありました。それは、一人一人の生徒が気持ちよく挨拶をしてくれたことです。

人と人との関係を結ぶ最も基本的なものの 1 つに挨拶があります。コミュニケーションも挨拶から始まります。朝の挨拶が飛び交う学校、それは学習環境の土台づくりが完成している学校といえます。私は生徒の皆さんから挨拶を通して元気と勇気をもらいました。このお蔭で気持ちのよい 1 日を迎えることができた 2 年間でした。

このように素晴らしい大垣東高校が 40 周年を契機として、さらに一層充実、発展されますことを心からお祈りいたしまして、拙い文章を閉じさせていただきます。



文武両道

第十六代校長

立川 文雄

創立 40 周年を迎えられ、誠におめでとうございます。

私が東高校に赴任したのは丁度 30 周年の年の 10 月でした。3 年半教頭としてお世話になり、その後再び校長として 2 年、都合 5 年半勤めさせていただき、教師生活の中で一番思い出に残っている学校です。赴任直後に地区懇談会が始まり、当時の大橋校長先生にどのような内容の話しをすればいいのか伺ったところ、真っ先に言われたことは、30 周年の航空写真を撮影する際、画用紙に色を塗ってグラウンドで人文字を作ったのですが、雨が降り始めて絵の具が溶けカッターシャツが染まってしまったことをお詫びしておいて欲しいということでした。雨に関わる思い出はまだあります。オーストラリアへの修学旅行で、出発当日台風が襲来し、暴風警報の中で果たして飛行機が飛ぶのかと心配しながら送り出したこと。また、天候がすぐれず順延してきた球技大会を何とか実施したいと校長先生にお願いし、途中やはり雨は降ってきたものの、泥田のようになったグラウンドで水を吸いバスケットボールのように重くなったバレーボールで懸命に試合を続けた姿。この時の ALT（英語指導助手）からはクレージーと言われたのですが、卒業式で忘れられない思い出になったという生徒の言葉を聞きホッとしました。怪我が多かったことも印象に残っています。保健室で尋ねたところ、東高生は何事にも一直線に進んでいくからということでした。目標に向かって他のことを考えずまっしぐらに努力する。こうした姿勢が進学結果にも部活動の戦績にも反映しているのだと思います。

部活動では、校長室前の賞状が何年か以前のものが多くありました。何とか新しい賞状にと思っていましたが、一年の間に競歩・放送・書道・水球・バドミントン・剣道等、県・東海・全国の賞状十数枚を一挙に掛け替えることになりました。文武両道の素晴らしい結果であったと思います。

2006 年には、それまで授業で作り送り続けていた仕掛け絵本を持って生徒の代表とともに直接ネパールに届け、子ども達に読み聞かせを行ってきました。集まった多くの子ども達は目を輝かせて聞き入っていました。出発前、柳ヶ瀬で募金活動したお金で井戸も掘ってもらいました。東高の校章の入ったプレートが今もネパールに残っています。



仰峯不屈の心を忘れず

第十七代校長

浅野 裕 司

岐阜県立大垣東高等学校が創立 40 周年を迎えますことに、心よりお祝い申し上げます。
私は平成 22 年 4 月からの 2 年間でしたが、大垣東高の発展のために誠に微力ではあります
ますが関わらせて頂いたことに、誇りと喜びを感じています。

最初に着任しました時、体育館で初めて出会う大垣東高生の前で、新任校長の挨拶を行いました。挨拶の前に一呼吸おいて全校生徒の顔を眺めてみると、この学校の雰囲気が一瞬にして分かりました。私が大好きな言葉の一つに、「場を清め、時を守りて、礼を正す」があります。その言葉が自然に心に入ってきました。落ち着いた学校、素晴らしい生徒達だと直感しました。その瞬間、大垣東高が大好きになりました。

どの学校でも、校長だけでは学校は動かせません。歴代の校長先生や教職員の皆さん、そして生徒と保護者の方々が、大垣東高のよき伝統や歴史、校風を醸成されてきたのです。加えて在任時の全職員が前向きな姿勢で、授業はもちろん課外や部活動でも丁寧・熱心にご指導いただき、頭の下がる思いでした。その甲斐あって、大学進学の実績や部活動等の結果も、生徒達が主役となって大きな成果を挙げてくれたと思っています。

今、日本では、国を揺るがす大災害や多くの国家的課題を抱え、先行きは全く不透明なものとなっています。こうした大変厳しい状況の中にあって、いつの時代においても、社会から求められるのは、様々な状況に対応しうる実践的学力と創造性並びに行動力を兼ね備えた人材です。大垣東高の教育理念や教育方針、そして目には見えない豊かな伝統は、正に当を得ているものと思います。

大垣東高での 2 年間は、誠実で個性豊かな活気ある生徒諸君から若い力を吸収させてもらい、常に生徒にとって何が大切かを考えて行動する教職員からは、教育の原点を改めて学ばせていただきました。また、より良い学校にと協力を惜しまれない同窓会や育友会の皆様からは、本当に温かくご支援いただいた 2 年間でした。ただ感謝あるのみです。

大垣東高にとってこの創立 40 周年が、これまでの歴史や歩みを振り返り、50 周年、100 周年に向けての今後の更なる飛躍を目指すための新たなスタートとなることを確信し、そして強く期待しています。